

令和7年度 小・中学校教育課程研究協議会に係る各部会の改善の重点

部会名

小学校 家庭科

改善の重点

- ① 題材を通して育成を目指す資質・能力を明確にし、2学年間を見通した題材の指導計画ならびに評価計画を作成すること。
- ② 児童の実態に応じた内容や活動を準備し、生活や社会の中から問題を見いだして、児童にとって必要感のある課題を設定し、解決を図る問題解決的な学習を一層充実させること。

1 設定理由

小学校学習指導要領第2章第8節家庭の第3「指導計画の作成と内容の取扱い」には、「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、知識を生活体験等と関連付けてより深く理解するとともに、日常生活の中から問題を見いだして様々な解決方法を考え、他者と意見交流し、実践を評価・改善して、新たな課題を見いだす過程を重視した学習の充実を図ること」とある。

家庭科における資質・能力の育成に向けて、2学年間を見通し、目指す資質・能力を明確にした上で、目標を具体化した指導計画を作成することが重要である。指導計画を立てるうえでは、児童及び学校、地域の実態等を十分考慮し、全体として調和のとれた指導計画となるよう工夫する。また、学習の成果を的確に捉えるため、評価の方法や場面を明記した評価計画を作成することが重要である。

そして、家庭科における主体的・対話的で深い学びの実現のために、生活や社会の中から問題を見付け、それを課題と捉え、改善に向けて、実践的・体験的な活動を通して、問題解決的な学習に取り組むことが必要である。

このようなことを踏まえて研究を進め、児童の発達段階や家庭科の特質を踏まえた教育活動に取り組むこととする。

2 研究を進めるに当たって

(1) 実践に当たっては、以下の点に留意すること。

- ① 「改善の重点①」については、2学年間を見通し、題材ごとに「どのような資質・能力を育成するのか」を具体化し、指導計画に明記すること。それを踏まえた上で、目標を設定し、児童と目指すゴールを共有すること。また、評価計画については、内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法についても具体的に明記すること。
- ② 「改善の重点②」については、生活や社会の中から問題を見出して児童にとって学ぶことに価値を感じる必要感のある課題を設定すること。また、新大分スタンダードを踏まえた問題解決的な学習を一層充実させ、1人1台端末を効果的に活用した授業を構想すること。

(2) 参考とすべき資料

- ① 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校家庭
(国立教育政策研究所 HP <https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>)
- ② 早わかり！単元計画の作成手順～資質・能力の確実な育成のために～
(大分県教育委員会 HP <https://www.pref.oita.jp/site/gakkokyoiku/hayawakari-tejyunn.html>)